県勢8強

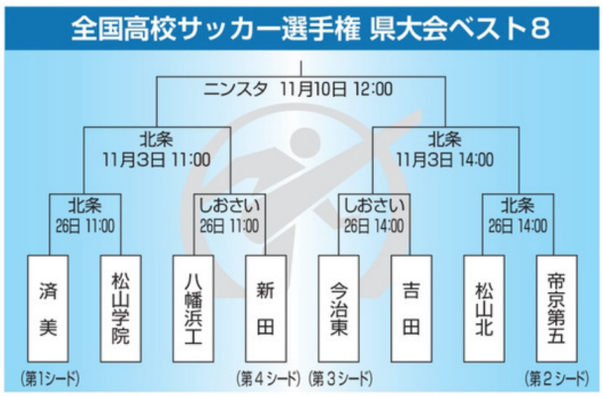
全国高校サッカー選手権

戦力分析

サッカーの第103回全国高校選手権県大会は26日、準々決勝が行われる。47校、44チーム（合同3チーム）が出場し、9月23日に開幕。10月14日に3回戦があり、シード校が順当にベスト8へ駒を進めた。四国プリンスリーグ所属の第2シード帝京第五は準々決勝から登場する。

第1シードの済美が県総体に続き、優勝を狙う。それに待ったをかけるのが、県総体決勝でPK戦の末に敗れた帝京第五。選手権2連覇に挑む第3シード今治東と、4年ぶりの王座奪還を目指す第4シード新田も機をうかがう。ノーシード4校も手ごわい存在でチャンスは十分にある。

8校の戦力を紹介する。（背番号、ポジション、丸数字は学年、白字抜きは主将）



松山学院 Vs 済美　第1シード

ポゼッションで隙突く　「賢く」プレー　2冠狙う

サッカー部の強化に乗り出して3年目を迎え、初めて全学年で臨む。ポゼッションを土台に相手に応じて隙を突く王道のスタイルで初制覇を狙う。

県総体以降、複数のけが人などで苦境が続いたが、9月以降ようやくメンバーがそろった。攻撃は平山と叶本のMF勢がボールをコントロールし、180㌢のFW三好が得点源を担う。三好は長身を生かし、守備での起用も想定。DF松原は経験値が上がり、落ち着きが出てきた。

昨年からのメンバーが8人おり、攻守にアグレッシブ。状況を素早く判断し的確にプレーする「賢いサッカー」を志向し、県総体との2冠を見据える。

攻守両面で重要な役割を担う主将の岡田、182㌢と高さのある清水の両センターバックは堅固。運動量のある10番の隅田は攻撃の潤滑油となる。

2トップは前線で幅広く動く。宮内は積極性があり、兵頭はパワーが武器。チーム内競争が活発で調子をみて選手を起用する。

1	GK	檜垣謙之輔	②
2	DF	村上　亮人	③
3	MF	浦川　朗日	❸
4	DF	高塚　叶大	②
5	MF	松本　秀翔	③
6	DF	岡本　晄希	②
7	MF	叶本　愛地	②
8	MF	村山　悠斗	③
9	FW	加藤　樹	③
10	MF	平山　琥珀	③
11	MF	仲程　海舟	③
12	GK	宇都宮生雅	①
13	MF	塩崎　陽太	③
14	MF	中尾　柊介	③
15	DF	高畑　星耶	②
16	MF	菅原　大凱	②
17	DF	松原　虹太	②
18	FW	三好　紘空	②
19	FW	竹原　風雅	③
20	MF	義農　陽斗	②
監督		香川　享進	

1	GK	西村　天翔	③
2	DF	垣添　光	②
3	DF	滝野　謙太	③
4	DF	清水　喜生	③
5	DF	岡田　蓮	❸
6	DF	深見　月哉	③
7	MF	沖富　駿	③
8	MF	河野　椋衣	②
9	FW	宮内　黄	③
10	MF	隅田　幸輝	③
11	FW	本田　蒼	③
12	DF	菅野　翔太	③
13	DF	南　隆心	②
14	FW	兵頭　陸	③
15	MF	川本　晃	③
16	GK	越智　蒼斗	③
17	MF	鈴木　晃成	③
18	MF	越智　恒太	③
19	MF	横田　天郁	②
20	FW	曽我部将人	③
21	GK	和田　遥夢	③
22	MF	藤田晃太朗	③
23	DF	中條　純	②
24	DF	塩田　碧泉	②
25	FW	小関　碧天	①
監督		渡辺　一仁	

第1・2シードが敗退

県高校サッカー4強決まる

サッカーの第103回全国高校選手権県大会第7日は26日、伊予市しおさい公園などで準々決勝4試合を行った。第1シードの済美と、第2シードの帝京第五がともにPK戦の末に敗れ、松山学院と松山北が準決勝に進出した。

2連覇を狙う第3シードの今治東は吉田を5―0で下し、4年ぶりの頂点を目指す第4シードの新田は八幡浜工を9―1で退けた。

準決勝の対戦カードは松山学院―新田、今治東―松山北で、11月3日に北条スポーツセンター陸上競技場で行われる。

▽準々決勝

松山学院 1（0―0、0―0延長、1―1、0―0）1 済美（PK5―4）

▽得点者【松】松本【済】中條

新田 9（4―0、5―1）1 八幡浜工

▽得点者【新】木原、山内3、石橋、永戸、吉田、平尾、大石【八】善家

今治東 5（2―0、3―0）0 吉田

▽得点者【今】安部、小西2、木花、小笠

松山北 1（0―1、0―0延長、0―1、0―0）1 帝京第五（PK4―3）

▽得点者【松】松永【帝】菅原